

山梨ライトハウス

第73号

発行/社会福祉法人 山梨ライトハウス 〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1

TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL <http://www5e.biglobe.ne.jp/~yamara/>



山梨県盲人福祉センター(点字図書館)
電話/055-222-3502・223-1113(貸出専用)

青い鳥ホーム 電話/055-252-8994

青い鳥成人寮 電話/055-224-5060

青い鳥支援センター 電話/055-221-1260

青い鳥老人ホーム 電話/0553-26-6631

青い鳥ケアホーム 電話/055-235-5566

社会福祉法人 山梨ライトハウス



11月は白い杖愛護運動月間です。

CONTENTS

バリアフリーらいふ	1	納涼祭	6
ライトハウスニュース	2・3	運動会	7
今、福祉は…	4	お知らせ	8
白い杖愛護運動月間	5		

山梨ライトハウスの昭和40年代

盲人福祉センター

所長 標

照二

バリアフリーらいふ

♪甲斐の山々 陽に映えて われ出陣
に うれいなし♪武田節の一節です。

山梨県を代表する民謡と言えば「武田節」、その武田節の作詞者が米山愛紫(直照)氏です。

米山愛紫氏は、明治三十九年(一九〇六)三月二十日・山梨県東八代郡里駒村下黒駒(現在の笛吹市)に、父米山嘉一郎、母よし、の二男として生まれました。昭和二十年上海狄恩威路川国民学校長。昭和二十二年退職して帰国。その後、社団法人山梨県引揚者協会事務局長に就任し、山梨県社会教育委員などを経て山梨県地方児童福祉委員や山梨県青少年問題協議会委員を歴任します。そして昭和三十三年(一九五七)十月三日に、山梨新民謡として武田節を作詞しています。

山梨ライトハウスでは、昭和三十年半ばごろから視覚障害者の方々の一助として会報などを録音し貸し出すという活動を検討し始めた頃です。

昭和四十二年九月、声の雑誌「山梨ジャーナル」第一号を発刊。事業のこと、また盲人福祉についての諸問題を取り上げ、皆さんにその実態と方向をお知らせすることになりました。その第一号に声の出演者として

て米山愛紫氏が、武田節をどのような思いで作詞したのかを語っています。

「一部ご紹介しますと「山梨県民に、偉大な英雄として伝えられている武田信玄公は、未だ県民から敬慕されている。私はその人間像を民謡にして、いつまでも歌ってもらおうと苦心して作ったのが武田節です。第二節は、信玄公は常に国内の平和、そして領民を可愛がったことを唄ったもので『みんな馬は肥えているか？妻や子は元気であるか？』信玄公が領民の上に注いだ温かい情け深い気持ちを唄ったものです」第二節までの歌詞の内容を詳しく語っています。興味深いものです。

昭和四十二年十二月山梨県の視覚障害者の方々にとって、また山梨ライトハウスにおいても大変記念すべきことがありました。山梨ライトハウス発足と同時に点字図書の制作に個々で携わってこられた方々がボランティア団体として山梨青い鳥点訳奉仕団を結成します。そのことにより視覚障害者の読書環境は飛躍的に向上していきます。また昭和四十四年には写本奉仕者、四十六年には録音奉仕者(現音訳奉仕者)がそこに加わり、現在の団名に改称し活動を続け、今年十一月で「結成五十年間」を迎えます。

第二節、愛紫氏は続けて言います。「♪人は石垣 人は城♪とは、甲斐の国の人々は心がしっかり結び合っていて情けの堀を湛

えている」この歌のごとく、山梨青い鳥奉仕団はこれからも視覚に障害を持つ方々の読書をうるおいのあるものにしていくはずですよ。

武田節は、甲府駅の特急「あずさ・かいじ、183系・189系」の車内放送のチャイムとして使われていました。現在は石和温泉駅の発着の際に使用されています。また都留文科大学で応援歌としても唄われています。



山梨青い鳥奉仕団による製作図書

ライトハウスニュース

NEWS NEWS NEWS

● 盲人福祉センター

「サピエ」研修会

九月二十九日(木)～三十日(金)、国立オリンピック記念少年総合センターを会場に行なわれた「サピエ」研修会に参加しました。全国の点字図書館・公共図書館・学校の図書館など百十三団体から約百六十人が集まりました。

「サピエ」とは、視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して、点字・点字図書データの提供をネットワークです。視覚障害者をもつ個人会員や全国の視覚障害者情報提供施設(点字図書館)や公共図書館・ボランティア団体・大学図書館など、約三百十の施設や団体が加盟して、視覚障害者等への情報サービスを行なっているインターネット上の図書館です。今年度、新たに加盟した図書館や図書館の人事異動等で担当になった職員を対象に「サピエの基本を知ろう」というテーマで行われました。

はじめに、利用者が点字データ・音声データなどのような機器で利用しているのか、利用者でもある職員から説明を受け、利用者が普段利用しているソフトを実際の画面を使い、具体的に大変分かりやすい説明でした。

デージー図書も、今までの肉声の音声デージーのみでなく、文字情報と画像のみのテキストデージー・文字情報と画像と音声デージーのマルチメディアデージーと種類が増え、利用者の選択の幅も増えてきました。それにとともに、ソフトや読書機器も多様化してきました。



サピエの最新情報の説明

利用者の皆さんに合った機器やソフトをアドバイスして、楽しく本を読んでいたためにこの研修を活かしていきたいと思えます。

● 青い鳥老人ホーム

清里の森彫刻ギャラリーへ触れる彫刻展

九月三日、青い鳥老人ホームでは初めての行事となる「触れる彫刻展」へ出かけました。清里の森彫刻ギャラリーGAKOUでは、乗山賀行さんの彫刻作品を触りながら鑑賞できるという事で視覚障がい者



説明を受けている様子

の方も楽しめます。乗山さんの作品は、全ての人に彫刻を身近に感じて欲しいという思いで、手で触れて見る事ができ、大切なのは「心の眼」との事で、利用者の皆さん指先に神経を通わせ、心の眼でじっくり鑑賞していた様に感じました。文楽人形・誕生仏・盲導犬など様々な彫刻を隅々まで触れて「ここが目、鼻、着物を着ている。これは手、ここはお尻だ。」と楽しまれ、乗山さんからも利用者さんの手を取り丁寧に作品の説明して頂き皆さん感動されていました。また引退した盲導犬が迎えに来てくれ、動物とも触れ合う事ができ、癒しの時間をもらい自然と笑顔がこぼれていました。

芸術を堪能した後は、お腹も満たそうという事でキープアームへ寄り道し「清里に来たら



ソフトクリーム最高!

これを食べなきゃ」との声が上ががり全員そろってソフトクリームを食べました。清里では涼しい風を感じる事もでき、芸術と食欲の秋にふさわしい小旅行を満喫できました。

● 青い鳥ホーム

塩部地区自治会の皆様にマッサージ奉仕

青い鳥ホームの皆さんは、敬老の日に合わせて九月十九日から約一ヶ月間にわたり、日頃からお世話になっている塩部地区自治会の皆さん(高齢の方)への無料マッサージ治療を行いました。

青い鳥ホームは、昭和三十二年に甲府市塩部の朝日小学校の北側に、視覚障害者を持つ未婚の女性が、マッサージなどは雇用されることが困難な方が、マッサージなどの施術指導や日常生活訓練・社会適用訓練などを通じて一般の人へマッサージなどの施術をすることに自ら立する、その支援を行うところとあります。ですから六十年の間、地区の皆様には防災関係からごみの分別、そして身近な方々がマッサージを受けに来ていただくなどご協力をいただいています。

そのようなことから、敬老の日になみな感謝の気持ちを込めて、自治会に無料マッサージ券を配布させていただきました。ご高齢の方々を中心に治療を行っています。マッサージを受けた方は「身体がとても軽くなった。ありがたい。」と喜んでいただいています。また、この期間中には甲府市鍼灸マッサージ師会のメンバーとしても福祉センターへマッサージ奉仕に行きます。

青い鳥ホーム

の皆さんは、広くマッサージの良さを知っていただきたいと、十一月六日の山梨ライトハウス主催の福祉祭りにおいて無料マッサージが行われます。



丁寧な治療が評判です

● 青い鳥成人寮

グループ活動のご紹介

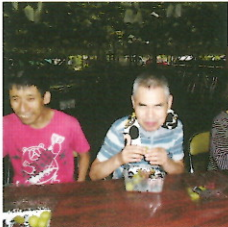
青い鳥成人寮では、利用者の皆さんで四グループに分かれて、それぞれで月に二回、体育、音楽、造形、フリーの四つのテーマに沿った内容で活動を行っています。グループ名は皆さんが考え、それぞれ「ラッコ」「ペッパー警部」「すみれ」「ぐるぐる」と個性様々です。

活動の内容は、皆さんで話し合っ決めていきます。遠方への散歩、プール、シャボン玉、体力測定、おやつ作り、壁画づくり、DVD鑑賞、カラオケ、ファミレスでおやつ、お花見、スイカ割り、ブドウ狩り、足湯、などなど皆さんの好きな事、季節の行楽などを満喫しております。

利用者さんからも「グループの皆で何をやるのか考えるのが楽しい」といった声が聞かれ、余暇時間に友達と「○○グループはぶどう狩りに行ったんだって」「今度うちのグループも行くからね」等の会話もはずみ、皆さんの活動を楽しみになさっています。



グループ活動の思い出



● 青い鳥ケアホーム

避難訓練

今年の夏は台風が多く発生し、全国各地で被害が報道されました。また、台風十号に伴う大雨による洪水被害で、岩手県岩泉町の高齢者グループホーム入所者九名がお亡くなりになったニュースは、同じグループホームとしても心を痛めております。謹んでお悔み申し上げます。

グループホームの良さの一つに

「施設よりも家庭に近い環境」が挙げられる一方で、職員体制や施設設備の面では、どうしても施設の方が手厚いのが現状です。青い鳥ケアホームでは、利用者の方々が安心して生活が送れる様、青い鳥成人寮をバックアップ施設とし、災害時・緊急時の連携をとっています。また、制度上では設置対象規模ではないものの、安全の為に第二、第二共にスプリングラーを全館整備しています。

加えて、九月二十七日の夕方、第一と第二合同では初めてとなる避難訓練を実施しました。地震を想定し、世話人が他部署に連絡して職員が応援に駆け付け、第二段階として建物の外、第二段階として成人寮まで避難しました。無事に避難を終えると、皆さんの顔にホッとした笑顔も見られました。ケアホームに戻ってから夕食には、お米を取り入れましたが、初めて見るご飯のパックに、皆さん関心を持っていました。



非常食を食べました

ケアホームの入居者の多くは視覚に障害があり、万が一の避難時には人手も要します。成人寮への移動中に「訓練ですか？」と地域の方が声を掛けてくれました。法人内での連携はもちろんです、地域のご理解ご協力を、これからも大切にしていきたいと思えます。



避難の様子

● 青い鳥支援センター

昇仙峡へGO!

九月二十五日(日)前日まで降り続いた雨も上がり、久しぶりの好天に恵まれたこの日、総勢二十九名で昇仙峡にハイキングに行つてきました。

昇仙峡仙娥滝を目指し、四五kmと二〇kmの二コースに分れ、それぞれ気合十分に出発。終始、脇目も振らずスタスタ歩いてる人、友達と手をとり、楽しそうに歩いている人、どんぐり拾いに熱心な人、先が見えないゴールを目指し、自分の限界と戦い歩き続ける人と様々。山々からさわやかな風が吹き、訪れる秋の気配を感じるとる事ができました。自然に造形された岩々々。大きな岩のトンネルは、パワースポットらしく、数知れぬ人々のおもいがコインと一緒に岩間に埋め込まれています。それにあやかり、願いを込め、一礼。歩くこと二時間余り。仙娥滝を右にうかがい、最後の難所、百段の階段を越えゴール。沢山の汗と心地よい疲労感。滝からこぼれるマイナスイオンを浴び、皆、安堵の表情を浮かべていました。

昼食は、荒川ダムを見下ろし、特注弁当に舌鼓。食後にソフトクリームも食べました。美味しいお弁当とソフトクリームで充電完了！最後に影絵の森美術館に向かいます。光と影、ファンタジックで美しい作品の数々と静かな空間は、しばし心の静寂をもたらしてくれました。観光地百選(第一位)環境省認定名水百選(平成百景(全国第二位))に選ばれたこの渓谷美を肌で感じ、自然を満喫した日となりました。



皆、がんばりました



マイペースでね

「目が見えないってどんなこと？」体験会を開催

盲人福祉センター 事務員 細川 純子

七月二十八日(木)「目が見えないってどんなこと？」と題した体験会を、盲人福祉センターを会場に開催しました。夏休み中の小中高生や保護者を合わせて二十名の参加がありました。

午前中は、点字の仕組みを学び、点字器で自分の名刺などを作成したり、歩行訓練士二名の指導のもと、ペアを組み交代でアイマスクをかけて、横断歩道や、細い道を通る際の声のかけ方などを学びました。昼食も、アイマスクをしながらのお弁当。メニューやおかずの位置などを説明してもらってもなかなか思うように口に運べない様子でした。

午後は、身近にある点字表示などが付いている様々な日用品を紹介しました。その後、盲導犬のユーザーで県立盲学校教諭の酒井弘充さんから、盲導犬との接し方などをクイズ形式で学びました。



点字について学びました



点字で名刺作り



これは何だろう?



おかあさんも苦戦



盲導犬について聞きました



白杖を使っでの体験です

参加された方からは、「見えないということがとても不安だということが分かった。」「どこかで目の不自由な方に出会ったときは、声をかけてあげようと思う。」などの感想がありました。この体験をとおして、目の不自由な方をより身近に感じてもらい、理解と協力を深める良いきっかけになればと思います。

富士吉田市立看護専門学校での講義を終えて

青い鳥成人寮

生活支援員(歩行訓練士) 野中 健

過日、富士吉田市立看護専門学校に於きまして「視覚に障害がある方の手引き」というテーマで講義をする機会を与えて頂きました。学生の皆さんにはアイマスクを用いた疑似的な障害体験を通じて、視覚に障害のある方を手引きする際にどのような声掛けや動きが分かり易いのかを考えるきっかけを掴んでもらいたいと考えていました。当日はちょうど梅雨の晴れ間といった具合で実技をするには大変な陽気でしたが、「アイマスクを付けたまま歩く」という特別な体験に高揚していたのでしようか、疲れた様子は見せず私の話に興味を持って聞いていたように感じました。実技中も学生同士



視覚障害の理解について講義



アイマスクを付けての体験

で活発に感想や意見を交換する姿が見られ、講義を進めながら正直ほっとしておりました。学生の皆さんには、手引きの方法を学んでもらうのも勿論良いのですが、視覚障害の方が困っていたときに「どうされましたか」「何かお手伝いしましょうか」といった相手を思いやる一言をかける、そのきっかけになったならどんなに素晴らしいだろうと考えておりました。学生の大半は山梨県出身でしたので、「将来皆さんが務めた先で目の不自由な方を見かけたなら、今回の経験でどんなことを感じたか思い出してみてください」と言って講義の結びとさせて頂きました。地道な活動ではありますが、県内在住の視覚障害の方々にとつてより暮らしやすい社会を目指し、その一助となれば嬉しく思います。

です。

第62回白い杖愛護運動月間実施要綱

1 目的

この運動は、県民の一人一人が目の不自由な人たちを正しく理解し協力するとともに、目の不自由な人たち自らも積極的に自立し、進んで社会活動に参加することのできる「ユニバーサル社会」の実現を目指す県民運動です。

2 主催

山梨県 山梨県教育委員会 社会福祉法人 山梨ライハウス

3 後援

山梨県社会福祉協議会 山梨県市長会 山梨県町村会 山梨県共同募金会 山梨県連合婦人会 山梨県交通安全協会 山梨県公立小中学校長会 山梨県高等学校長協会 山梨日日新聞社 山梨放送 NHK甲府放送局 読売新聞甲府支局 テレビ山梨 山梨県立盲学校 山梨県障害者福祉協会 山梨県ボランティア協会 山梨青い鳥奉仕団 山梨県視覚障がい者福祉協会 山梨県眼科医会 山梨アイバンク 山梨県タクシー協会 山梨交通株式会社 富士急行株式会社

4 実施期間

平成28年11月1日～平成28年11月30日の1ヵ月間

5 運動の目標

◎安全な移動環境のバリアフリー

- ① 目の不自由な人たちは外出するとき、必ず白い杖を持ち、車とすれ違う際には走行音にも気を配り自ら歩行の安全につとめる。
- ② 横断歩道、バス停、駅構内などで、目の不自由な人や他の障害をもつ人たちにさりげなく声をかけ必要に応じて協力する。
- ③ 盲導犬の普及をはかるとともに、交通機関、飲食店、食料品店、宿泊施設等へ盲導犬を同伴できるよう啓発する。
- ④ 障害者用誘導ブロック、エスコートゾーン(道路横断帯)、音響信号機、誘導チャイム、点字や音声による案内表示の普及をはかるとともに、歩道に自転車や障害物を置かないよう啓発する。
- ⑤ 目の不自由な人や他の障害をもつ人たちが、バス、タクシー、電車などを安心して利用できるような環境を整備するとともに、運転者は、道路を横断する人たちに対し徐行、一時停止を守るようつとめる。
- ⑥ 目の不自由な人や他の障害をもつ人たちが、安心・安全な移動を実現するために同行援護サービスの質の確保につとめる。

◎生きがいある自立就労支援の拡大

- ① 目の検診や相談活動により、障害の早期発見、早期治療、早期訓練などにつとめ自立への積極性を育成する。
- ② 目の不自由な人たちの鍼灸マッサージ業を守り、無資格者をなくすとともに、ヘルスキーパー(健康管理理療師)、ケアマネージャー、機能訓練理療師など職域の拡大をはかる。
- ③ 中途で目が不自由になった人たちの職場復帰をはじめ、IT機器・情報通信を積極的に利活用した職能訓練等を通じて自立就労の拡大につとめる。
- ④ 生活の自立が困難な目の不自由な高齢者や障害を重ねてもつ人たちが、安心して暮らせる施設の整備をはかるとともに、地域において自立生活ができるよう支援につとめる。
- ⑤ 目の不自由な人たちの緊急時における安否確認・支援ニーズを把握するマニュアルづくり、救災連絡網の組織化など県・市町村における防災対策の強化につとめるとともに防犯対策に関する知識の普及、啓発につとめる。

◎文化情報サービスのバリアフリー

- ① 障害の多様化や情報通信技術の発達などを背景に多様化したニーズへ対応するため、公共図書館と情報の共有・連

携をはかり、障がい者サービスの一層の充実につとめるとともに、地域におけるボランティア活動の技術向上をはかる。

- ② 県・市町村等の公共機関をはじめ、郵便局、銀行、病院等における各種情報の点字化・音声化などを通じて利用の便宜をはかるとともに、県民に対する点字の普及につとめる。
- ③ 音声パソコン・音響機器・拡大読書器・文書読み上げ装置・音声ICタグレコーダなどを活用し、目の不自由な人たち自ら情報の収集につとめるとともに、これらの機器が日常生活用具として給付されるよう自立支援サービスの充実につとめる。

◎交流・啓発活動の拡大

- ① 盲学校、視覚障がい者福祉協会、山梨ライハウス等、地域との交流を一層推進するとともに、相互の協力関係の輪を広げ福祉思想の啓発につとめる。
- ② 白い杖作文、福祉講話などを通じて児童生徒とのふれあいを深め、「共に生きる」思いやりの心を育成する。
- ③ 目の不自由な人たちをはじめ、他の障害をもつ人たちとのスポーツ、レクリエーションその他趣味活動を通じて県民との交流の機会を拡大する。
- ④ 目の愛護運動を通じて失明を予防するとともに、角膜提供運動を推進する。

6 運動月間行事

① 白い杖・盲導犬キャンペーン

日 時 平成28年11月1日(火) 午前7時30分～8時30分
場 所 甲府駅南口及び北口 他郡内地区2ヵ所
内 容 啓発パンフレットとふれあいの鈴などの配付、広報車による甲府市内での啓発活動

② 白い杖福祉の集い

日 時 平成27年11月6日(日) 午前10時～11時半
場 所 山梨県立盲学校体育館
内 容 奉仕者知事表彰
白い杖愛護作文・生活体験文表彰
最優秀作文発表

③ 白い杖愛護作文・生活体験文募集

募集期間 平成28年7月19日～9月1日
対 象 白い杖愛護作文(県下の小・中・高校の児童生徒)
生活体験文(県下の目の不自由な一般および児童生徒)
表 彰 白い杖愛護作文では各部門ごとに最優秀1編及び優秀5編を表彰する。
生活体験文では各部門ごとに最優秀1編及び優秀3編を表彰する。

- ④ 運動月間の周知
各支援団体、報道機関を通じてこの運動の趣旨及び活動内容を周知し、理解を深める。



第61回白い杖福祉の集い



第61回白い杖盲導犬キャンペーン

納涼祭

8月27日、山梨ライトハウス恒例の地域交流納涼祭が行なわれました。台風の影響で、朝からあいにくの雨。青い鳥成人寮の施設内での開催となりましたが、多くの方々においで頂きました。特に、「射的」と「つかみ取り」は初めての企画でしたが、利用者さんや地域の子供さんと賑わいました。

コンサートは、昨年に引き続きマリナーズ。室内ならではの音響設備の下でのお母さんのピアノや、マリナさんと妹さんの伸びやかな歌声に、参加者の皆さんは耳を傾けていました。池田おやなぎ連、池田民謡部の皆さんもお祭りを盛り上げてくださり、ありがとうございました。また、ボランティアのご協力にも感謝申し上げます。来年も楽しく納涼祭が開催できますように…。



▲池田おやなぎ連のお囃子でスタート



▲雨でも多くの方が来てくれました



▲大賑わいです



▲甚平姿いいね!



▲マリナーズのコンサート



▲狙いを定めて…



▲屋台の新メニュー「カレーおいしいね」



▲賑わう屋台



▲遠慮がちにつかみ取り



▲盆踊りの様子



▲空くじなしの豪華(?)賞品



▲何等が当たったかな?



▲池田民謡部の方々ありがとうございました

三団体 交流運動会

10月2日(日)山梨県立盲学校において、山梨県視覚障がい者福祉協会・山梨青い鳥奉仕団・山梨ライトハウスの三団体による交流運動会が開催されました。今年は台風が多く秋雨前線の影響ですっきりしない天気が続きましたが、当日は秋晴れでグラウンドの状態も良く、絶好の運動会日和となりました。

競技は、午前中に「出た目でリズム」「力を合わせて」「防災訓練」「味覚の秋」「あおとりウルトラクイズ」「綱引き」、午後からは「血压測定」「鳴物競争」「じゃんけんポン」「福拾い」「紅白対抗リレー」が行われました。

「出た目でリズム」は今年から採用された新競技で、サイコロを振って出た目の数だけ、楽器で音を鳴らすゲームです。初めての競技でしたが、みなさん慣れた様子で楽器を鳴らしていました。また「あおとりウルトラクイズ」では、今年も花形理事長クイズが飛び出しました。昨年とても好評だったので、今年もサプライズでの出題でした。出題者でも答えの分からない花形理事長クイズ、みなさんは当てる事は出来ましたか？

今年の運動会は42対38で白組の勝利！暑い中でしたが、両チームの参加者とも楽しい一日を過ごせたことと思います。「来年もまた元気に会いましょう」という閉会の言葉で今年の運動会も無事に締めくくることが出来ました。



▲「選手宣誓」いよいよ始まります！



▲息を合わせて引っ張って「綱引き」



▲やった～目当ての物が取れた！



▲新競技「出た目でリズム」



▲音を頼りにボールを転がします「鳴物競争」



▲力を合わせて色々な物を運びます



▲サイコロの数だけ音を鳴らします



▲「福拾い」何が入っているでしょう？



▲「紅白対抗リレー」ガンバレ！ガンバレ！



▲皆さん元気に参加出来ました「万歳三唱」

視覚障害者 交流囲碁大会

9月2日山梨県防災新館で、山梨県芸術文化祭が行われ山梨ライトハウス主催の視覚障害者交流囲碁大会が行われました。かわいらしい碁士たちも参加しました。



赤い羽根共同募金会から 配分品



赤い羽根共同募金会から盲人福祉センターへ「AED (自動体外式除細動器)」「点訳支援ソフト (点訳自動ソフト)」と事業費の助成として28万2千円の配分がありました。

設置に際し「AED」を使っ
ての救命処置講習を受け命
の尊厳を再確認しました。ま
た、点訳支援ソフトによって多
くのデータ形式に対応できるよう迅速
な情報提供ができるよう今以上に努めてま
いります。

点訳奉仕員養成講習会が 閉講

6月から始まった点訳養成講習会が16回の過程を経て9月に修了しました。受講生のみなさんお疲れさまでした。今後さらに練習を重ね多くの図書づくりに協力していただけますよう期待しています。これからもどうぞよろしくお祈りします。



音訳奉仕員養成講習会が 閉講

青葉香る5月に開講した音訳奉仕員養成講習会が、残暑厳しい9月に閉講しました。大雨や台風の影響で天候不順な日も多い中、講習日は、お天気にも恵まれました。全16回の受講、皆さん熱心に出席していただきありがとうございます。今後は、利用者のニーズに応じて多くの図書を製作していただけますようご協力をどうぞよろしくお祈りします。講師の先生方、ご指導ありがとうございました。



川柳

(九月のライトハウス川柳会から)

浅川和多留 選

自然界怒りか風雨置き土産

井口 貞子

絵手紙で孫らが描くじじの顔

加藤 隆

一人でも生きねばならぬ茶をすす

河口 竹子

便利さに集中豪雨カツを入れ

中村 洋子

千鳥足辿る家路が遠かった

細川 一

独酌のワインじっくり夜の膳

花形 幹雄

海の日にめでたく山も肩並べ

高坂 康平

風に乗り煮物が誘う腹の虫

今村 晴美

暮参り惚ぶ思いは果てしなく

桑原 梅次

縁台も今は昔の風物詩

埜村 和美

ウツハツハつられてこちらもウツハツハ

佐野 しま

リハビリをしながらしゃべる五人組

藤森 栄子

はやぶさに飛び乗り過去に会いに行く

標 照二